

水辺空間活用（舟運）ワーキング 第7回 議事要旨

1 日時・場所

平成30年3月19日（月） 10:00～12:00

東京都 第二本庁舎31階 特別会議室27

2 委員一覧

別紙 名簿のとおり

3 議題

(1) 平成29年度の舟運活性化社会実験について

(2) 水辺空間の魅力向上の取組について

(3) 舟運活性化に向けた平成30年度の取組について

4 質疑要旨

[東京都都市整備局 堀部長]

- 知事にも本年度の取組結果を報告し、舟運の魅力を伝えるムーブメント醸成が求められるといった趣旨の発言があった。東京都としても引き続き、舟運の活性化、水辺の魅力の周知に向けて、舟運全体のPR等に取り組んでいきたいと考えている。そのためにも、本ワーキングの参加メンバーと連携して取り組んでいくことが重要であると考えているので、引き続き宜しくお願したい。

[清水教授（主査）]

- 5か年計画の2年目を終えるのにあたって、長期、短期の各目的、課題点等を踏まえ、個別の取組の再整理も重要な時期に来ていると感じる。
また、国・都・区等の個別の取組を、全体として目指すべき方向性の統一や、一体感のあるものにしていくことが重要。
- 他の交通機関でも同様な状況にあるが、事業者ごとに異なる予約サイトについてはワンストップを目指していく議論も今後は必要になる。
- ナビゲーションアプリへの対応等も進めて、経路検索上に舟運を露出させ、日常の移動手段として示していくことも求められる。
- 案内サインは試行設置の地区を拡大することも良いが、すでに設置した2地区については、他の交通機関や地域等との連携強化を見据えた深度化も必要と考える。
- 都市整備局が舟運活性化事業をやる意味を考えると、舟運を都市づくりにどうつなげるかという点まで昇華させることが求められていると考える。
- 水辺のライトアップが充実してきているが、夜に舟の運航が少ないなど、今後、解決すべき課題もあると認識している。
- 今後は、国、都、区等において実施している個別の取組を統合していくべき時期に来ていると判断している。

[篠原准教授 (アドバイザー)]

- 「船着場間の表記の統一は今後の課題」と記載されているが、具体的な動きについては、都がリーダーシップをとって調整していただきたい。
- 航路の充実には、乗船単価に関する整理も必要と考える。
- 水辺空間の魅力向上の取組について、各自治体、部署でそれぞれいろいろ取り組まれていることについては好ましいことだと思う。ただ、舟運の活性化には、これらの各取組の情報共有と活用に向けた議論のもと、市民や商店街等を巻き込んでいくことが必要である。
- 国土交通省による社会実験でも、地域との連携を行ったが、その方々の盛り上がり等を上手く都の取組と連携、情報共有を図っていただきたい。

[建設局河川部]

- 隅田川を中心に、水辺のにぎわいづくりを進めている状況にある。具体的にはスーパー堤防やテラス等の親水空間の整備、テラスへの夜間照明の設置等による水辺の動線強化、規制緩和による民間事業者の利活用の促進として、オープンカフェやかわてらす等の社会実験の取組を実施している。さらに、川沿いに観光拠点等がある浅草、両国等を「にぎわい誘導エリア」として、周辺施設との結びつきを強め、地域全体のにぎわいを高める取組を展開している。
- 防災船着場については利用の需要があれば、その都度、一般開放していく。
- 隅田川での活動、交流促進のため、「隅田川サポーター」として企業、団体を募集した。今後は共同イベント等による交流の促進につなげていきたい。

[港湾局]

- 周辺の再開発と連携した水辺のにぎわいづくりの一環として、日の出・竹芝ふ頭をつなぐ人道橋や日の出ふ頭の栈橋改修等を進め、日の出ふ頭を舟運の拠点とすることを目指している。
- また、効果的な夜景の演出手法等の検討のため、日の出ふ頭の建物をライトアップして、船上からの夜景について都民や有識者の方々等から、ご意見をいただく社会実験を実施した。

[品川区]

- 平成28年度から区内の船着場を一般開放して、舟運事業者の方々に航路を設定していただき、運航に関する社会実験を実施している。平成29年度は平成28年度に比べ、乗船人数も10%増加しており、満足度も約80%となっている。
- 周辺の道路、公園等の改修と合わせて五反田防災船着場の新設を予定している。
- 都政策企画局、港湾局と連携し、ライトアップ計画を進めている。
- 区有船着場5か所のうち3か所で、案内サインやバリアフリー等の観点から改修を進めていきたい。

[大田区]

- 大森ふるさとの浜辺公園を起終点とした航路で、社会実験を実施した。大森ふるさとの浜辺公園では、園内のレストハウスの運営に携わる地元商店街と連携し、乗船者へドリンクチケットの配布等のほか、ビーチバレーボール大会と連携した運航等、種々の連携や取組を実施した。
- 都の社会実験と同日運航も実施した。区側では早朝の時点で乗船希望者が定員を上回ったため、都側の運航の空き状況などが分かれば、区側の乗船希望者を都側へ誘導するなど、さらなる連携が図れたとも考えている。
- 隣接する品川区とも、引き続き連携を図り、舟運の活性化につなげていきたい。
- 水辺の魅力形成について、より具体性を持たせることも必要と考えている。例えば大森は海苔の漁場であった歴史的経緯を運航に加えたところ、親子連れなどの多くの参加者に舟運を利用していただくことが出来た。このことから、舟運事業の周知向上や需要の喚起には、地域の歴史、文化等の教育的な視点もあると良いと考えている。
- 船着場のにぎわい創出に向けて、東京2020大会に関連した船着場周辺でのイベントを都として考えてほしい。案内サインについては、現在着工している両国リバーセンター等、先行した設置実例があれば、案内サインに関する見学会を開催する等の情報の共有を頂ければ、区としても参考になる。

[江東区観光協会]

- 平成29年11月に旅行業登録を行ったので今後も舟を使ったパッケージツアーを企画していきたい。
- 3月31日実施の「隅田川お花見クルーズ」は、東京新聞にも掲載され、募集定員以上の申込があった。

[屋形船東京都協同組合]

- まだまだ舟運自体の認知度が低いことから、舟運の全体を俯瞰した認知度の向上に取り組んで欲しい。
- 現状の船着場は、それ自体に魅力が少ないことや背後の魅力を伝えていない。例えば羽田と浅草を結んで一日楽しく過ごせる航路の創設とともに、船着場の魅力向上や背後の魅力を伝えるような整備をしてもらえれば、舟運全体がもっと活性化するのではないかと。

[東京湾遊漁船業協同組合]

- お台場は予約なしで乗船する方が多いなど、船着場の立地条件によった特徴がある。大田区の社会実験では区報による告知が効果的だったと聞いている。それぞれの船着場に対応した方法で、運航を周知させることが重要。
- 船着場の背後の魅力も重要で、それにより舟運全体の魅力が決まる部分があるので、船着場周辺の魅力を高めていくことも重要ではないかと。

〔東京観光遊漁船協議会〕

- 今回の社会実験を通して、定期航路運航に係るノウハウ、特に棧橋利用における様々な経験を得ることができた。この社会実験を契機に他の運航事業者と連携できたことは資産になった。
- 定期航路化を検討するうえで、バリアフリー対応が課題と認識している。船のバリアフリー対応のための助成金が充実することが望ましい。
- 平均の乗船率が23%というのは、いい数字を捉えていると思う。日本橋での経験上、始めてから3年間はなかなか乗船率23%にはいかないと思う。地域の方と連携するなかで徐々に乗客が増えてきて、今は何とか形になってきた。冬場は需要が落ち込むが、今期は映画とのタイアップができ、その航路は冬でも満席となった。地域の連携と一緒にやっていくという気概が大切であると考えている。

〔事務局〕

- 社会実験を通して、需要がある航路等を確認することができた。また、アンケート結果では70%の方が乗船自体を目的としているなど、航路によっては需要そのものを喚起する必要もあると考えている。社会実験の航路によって課題は異なるが、舟運全体の共通課題としては、認知度の不足、船着場の利便性や魅力が低い等が挙げられる。都としては、これらの課題点の解決に向けて、引き続き取り組んでいく。
- 平成30年度は舟運全体のPRや案内サインの整備を通して乗船しやすい環境整備の推進、船着場周辺や船上からの景色など、東京の水辺の魅力を発信していきたい。特にPRに関しては社会実験の航路に対するものから、舟運全体へ拡充する。また、PR動画の作成のほか、航路図、時刻表などの舟運に関する情報を一元化して発信するなどの取組も考えている。
- 船着場周辺のにぎわい創出による魅力の向上に向けて、水辺のイベントに合わせた企画便等の運航のほか、舟運とまちとの連携にも取り組みたい。
- 利便性の向上に向けて、船着場ごとの課題を調査したうえで、案内サインの整備計画を策定していきたいと考えている。
また、平成29年度はお台場、天王洲の2地区にて、案内サインの試行設置を実施したが、平成30年度は、これらの取組を他地区へ拡大していく。
- 地図情報に関しても、船着場名称等を統一するなど、地図管理者等との調整も進めていきたい。
- 予約システムについては、今年度使用したものを民間の方でも使える状態にはなっている。使いたいという方がいれば、個別に調整することも可能。
- 社会実験の航路そのものを民間により自走化するというよりは、社会実験の結果を踏まえつつも、民間により自走化が想定できる航路が定期航路化されるものと考えている。都としては今後、新たに創設させる定期航路を含め、東京の舟運全体の活性化のための環境整備に注力していく方針である。

以 上

水辺空間活用(舟運)ワーキンググループ(第7回)出席者名簿

	役職名	委員名	備考
主査	首都大学東京大学院都市環境科学研究科教授	清水 哲夫	
専門アドバイザー	跡見学園女子大学観光コミュニティ学部観光デザイン学科准教授	篠原 靖	
委員	東京都 政策企画局調整部技術政策担当課長	池田 中	
委員	東京都 都市整備局都市基盤部物流調査担当課長	関口 知樹	代理
委員	東京都 都市整備局都市基盤部交通プロジェクト担当課長	堀川 誠司	
委員	東京都 産業労働局観光部観光施策担当課長	齋藤 順	代理
委員	東京都 建設局河川部河川管理制度担当課長	田中 功	
委員	東京都 建設局河川部低地対策専門課長	富澤 房雄	
委員	東京都 港湾局港湾経営部監理担当課長	江袋 晃弘	
委員	東京都 港湾局港湾整備部環境対策担当課長	小野 正揮	
委員	千代田区 環境まちづくり部 麹町地域まちづくり課長	三本 英人	代理
委員	中央区 区民部 商工観光課長	田中 智彦	欠席
委員	中央区 環境土木部 水と緑の課長	溝口 薫	欠席
委員	港区 街づくり支援部 地域交通課長	西川 克介	欠席
委員	港区 芝浦港南地区総合支所 まちづくり担当課長	海老原 輔	代理
委員	港区 産業・地域振興支援部 観光政策担当課長	富永 純	
委員	台東区 都市づくり部 都市計画課長	原嶋 伸夫	代理
委員	墨田区 都市整備部 都市整備課長	天海 晴彦	代理
委員	墨田区 産業観光部 観光課長	佐久間 英樹	代理
委員	江東区 都市整備部 まちづくり推進課長	草深 玲安	代理
委員	江東区 一般社団法人 江東区観光協会 事務局長	笠間 衛	代理
委員	品川区 防災まちづくり部 河川下水道課長	持田 智彦	代理
委員	大田区 まちづくり推進部 空港臨海部調整担当課長	浦瀬 弘行	
委員	江戸川区 土木部 水とみどりの課長	多賀 美代	代理
委員	一般社団法人 日本旅行業協会 関東支部 事務局長	渡邊 泰	
委員	関東旅客船協会 事務局長	西牧 秀夫	
委員	屋形船東京都協同組合 理事長	佐藤 勉	
委員	東京湾遊漁船業協同組合 理事長	飯島 正宏	
委員	東京観光遊漁船協議会 会長	島田 誠一	
オブザーバー	国土交通省総合政策局公共事業企画調整課	菅 太	